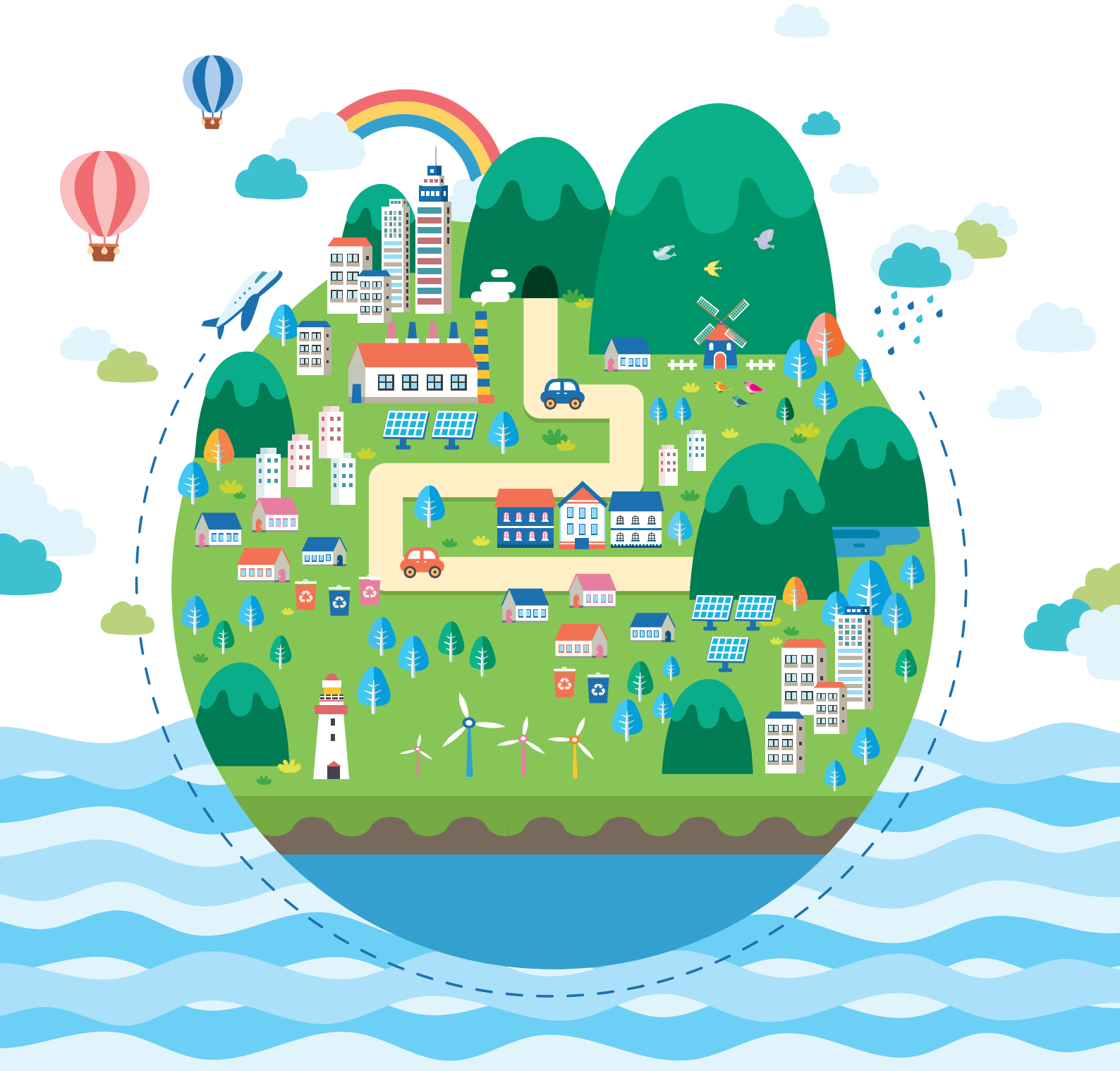
環境省

令和2年度

環境政策を支える

環境研究総合推進費

ENVIRONMENT RESEARCH & TECHNOLOGY DEVELOPMENT FUND



環境研究総合推進費とは

●目的

研究開発により環境政策の推進に寄与

環境研究総合推進費（以下「推進費」という。）は、気候変動問題への対応、循環型社会の実現、自然環境との共生、環境リスク管理等による安全の確保など、持続可能な社会構築のための環境政策の推進にとって不可欠な科学的知見の集積及び技術開発の促進を目的として、環境分野のほぼ全領域にわたる研究開発を実施しています。

●特徴

環境省が必要とする研究テーマ（行政ニーズ）に合致する研究開発を採択・実施

推進費は、環境省が必要とする研究テーマ（以下「行政ニーズ」という。）を提示して公募を行い、広く産学民官の研究機関の研究者から提案を募り、評価委員会及び分野毎の研究部会の審査を経て採択された課題を実施する、環境政策貢献型の競争的資金です。

環境省がトップダウン的に研究テーマや研究リーダー等の大枠を決めた上で、研究チームを競争的に選定するシステム（戦略的研究開発領域）を設けるなど、行政ニーズに立脚した戦略的な研究開発を強力に推進します。

外部委員の評価により制度運営の透明性・公平性・効率性を確保

推進費において、事前評価（採択時審査）、中間評価、事後評価を行う評価委員会・研究部会は外部専門家・有識者等からなり、各研究課題は、必要性・有効性・効率性・経費の妥当性等の観点から審査されます。

事前評価の結果に基づいて新規課題の採否を決定し、中間評価の結果に基づいて次年度予算額の増減を決定するなど、透明かつ公平で効率的な制度運用に努めています。

●研究の対象領域

令和元年度から、「環境研究・環境技術開発の推進戦略」（令和元年５月21日 環境大臣決定）の構成に沿った、以下の５領域構成としました。

- **統合領域（第１部会）**
  持続可能な社会の実現に向けたビジョン・理念の提示、ビジョン・理念の実現に向けた研究・技術開発、持続可能な社会の実現に向けた価値観・ライフスタイルの変革、環境問題の解決に資する新たな技術シーズの発掘・活用、災害・事故に伴う環境問題への対応に貢献する研究・技術開発、グローバルな課題の解決に貢献する研究・技術開発「海洋プラスチックごみ問題への対応」）　等
- **気候変動領域（第２部会）**
  気候変動の緩和策に係る研究・技術開発、気候変動への適応に係る研究・技術開発、地球温暖化現象の解明・予測・対策評価　等
- **資源循環領域（第３部会）**
  地域循環共生圏形成に資する廃棄物処理システムの構築に関する研究・技術開発、ライフサイクル全体での徹底的な資源循環に関する研究・技術開発、社会構造の変化に対応した持続可能な廃棄物の適正処理の確保に関する研究・技術開発　等
- **自然共生領域（第４部会）**
  生物多様性の保全に資する科学的知見の充実や対策手法の技術開発に向けた研究、生態系サービスの持続的な利用やシステム解明に関する研究・技術開発　等
- **安全確保領域（第５部会）**
  化学物質等の包括的なリスク評価・管理の推進に係る研究、大気・水・土壌等の環境管理・改善のための対策技術の高度化及び評価・解明に関する研究　等

※エネルギー起源CO_2の排出抑制に資する技術開発等は、エネルギー対策特別会計により別途実施されているため、推進費の対象には含まれません。

推進費の制度や概要については以下の環境省HPで、
https://www.env.go.jp/policy/kenkyu/
https://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/gaiyou/

また公募情報については、独立行政法人環境再生保全機構環境研究総合推進費HPで公開しています。
https://www.erca.go.jp/suishinhi/

＜環境研究・技術　情報総合サイトのトップページ図＞

＜環境研究総合推進費のトップページ図＞

●環境研究総合推進費の歩み

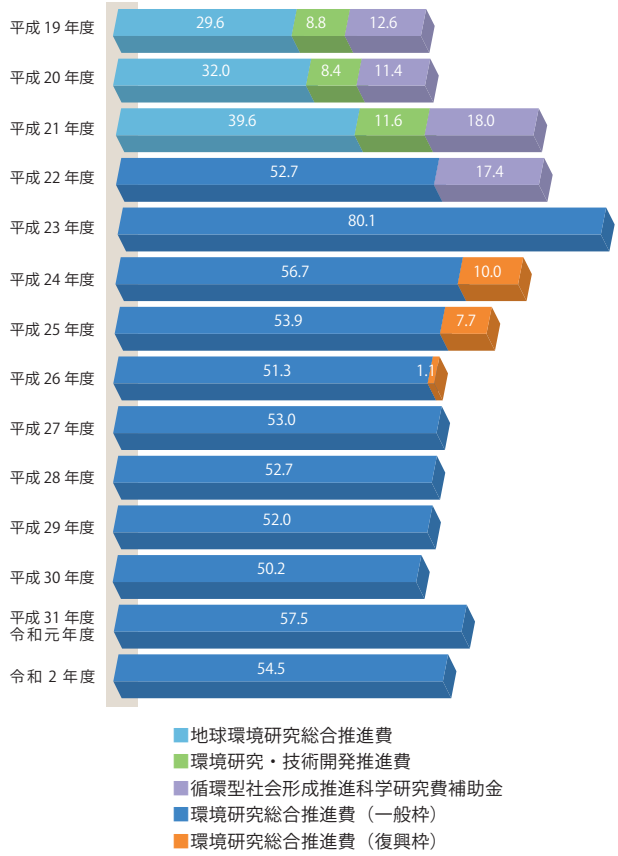
環境研究総合推進費は、平成22～23年度に、「地球環境研究総合推進費」、「環境研究・技術開発推進費」、「循環型社会形成推進科学研究費補助金」の３つの競争的研究資金を統合して創設されました。

平成24年度からは、東日本大震災復興特別会計を財源とする復興枠を設け、被災地の早期復興にとって不可欠な科学的知見の集積及び技術開発を推進してきました。なお、復興枠による研究課題は、平成26年度で終了しました。

また、効果的・効率的な事業の推進を図るため、平成28年10月より独立行政法人環境再生保全機構へ一部業務を移管しています。

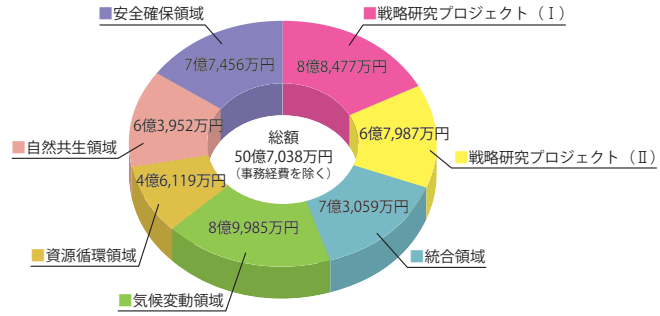
●令和２年度の実施課題数及び予算額

令和２年度は、継続研究課題（戦略研究プロジェクト８件、問題対応型・革新型等の個別研究課題93件）に加え、新規研究課題として、戦略研究プロジェクト３件と個別研究課題55件に着手します。合わせて戦略研究プロジェクト（Ⅰ）４件、（Ⅱ）７件、個別研究課題148件の研究開発を実施しています。

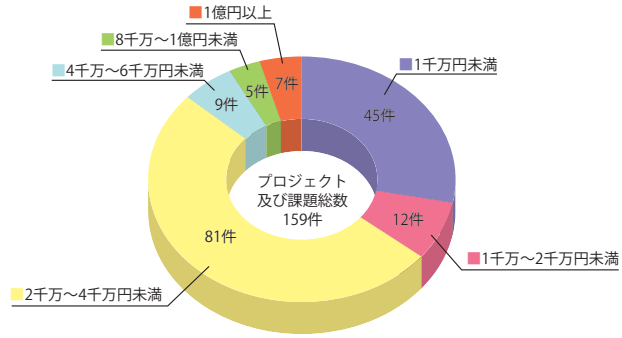


環境省の競争的研究資金の推移（単位：億円）

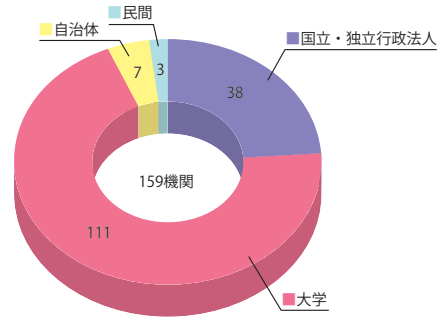
●令和２年度実施課題



領域別予算額

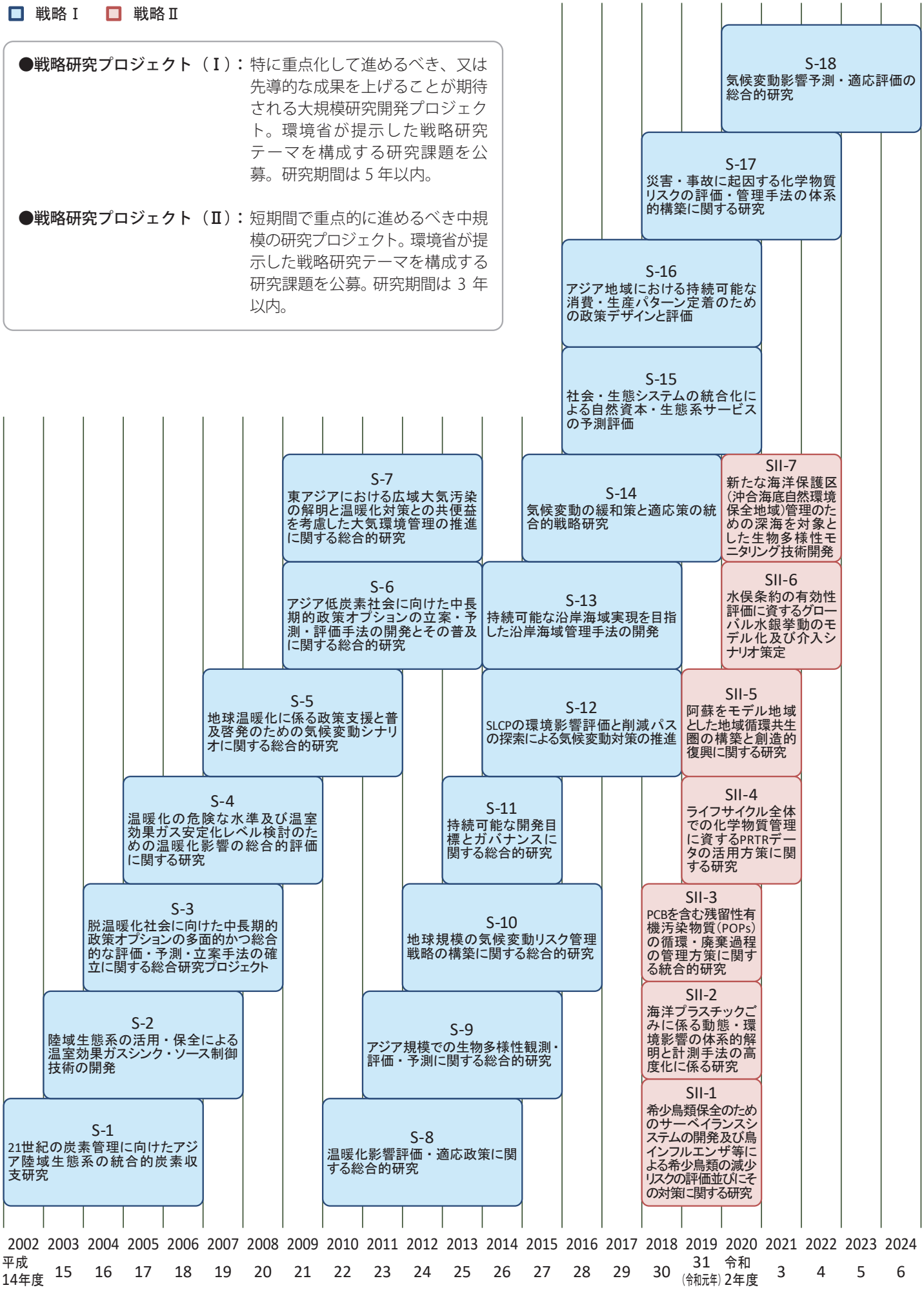


予算規模別課題数



代表者所属機関数

戦略的研究開発領域（Ⅰ,Ⅱ）プロジェクト名及び実施状況



令和２年度実施研究課題リスト

【各項目内容について】　課題番号／研究代表者／研究代表者所属機関／研究期間（予定）（単位：年度）
研究課題名

戦略研究プロジェクト（Ⅰ）　計4プロジェクト

S-15／武内　和彦／東京大学／2016～2020
社会・生態システムの統合化による自然資本・生態系サービスの予測評価

S-16／平尾　雅彦／東京大学／2016～2020
アジア地域における持続可能な消費・生産パターン定着のための政策デザインと評価

S-17／鈴木　規之／（国研）国立環境研究所／2018～2022
災害・事故に起因する化学物質リスクの評価・管理手法の体系的構築に関する研究

S-18／三村　信男／茨城大学／2020～2024
気候変動影響予測・適応評価の総合的研究

戦略研究プロジェクト（Ⅱ）　計7プロジェクト

SⅡ-1／羽山　伸一／日本獣医生命科学大学／2018～2020
希少鳥類保全のためのサーベイランスシステムの手法の開発及び鳥インフルエンザ等による希少鳥類の減少リスクの評価並びにその対策に関する研究

SⅡ-2／磯辺　篤彦／九州大学／2018～2020
海洋プラスチックごみに係る動態・環境影響の体系的解明と計測手法の高度化に係る研究

SⅡ-3／酒井　伸一／京都大学／2018～2020
PCBを含む残留性有機汚染物質（POPs）の循環・廃棄過程の管理方策に関する統合的研究

SⅡ-4／小口　正弘／（国研）国立環境研究所／2019～2021
ライフサイクル全体での化学物質管理に資するPRTRデータの活用方策に関する研究

SⅡ-5／島谷　幸宏／九州大学／2019～2021
阿蘇をモデル地域とした地域循環共生圏の構築と創造的復興に関する研究

SⅡ-6／高岡　昌輝／京都大学／2020～2022
水俣条約の有効性評価に資するグローバル水銀挙動のモデル化及び介入シナリオ策定

SⅡ-7／藤倉　克則／（国研）海洋研究開発機構／2020～2022
新たな海洋保護区（沖合海底自然環境保全地域）管理のための深海を対象とした生物多様性モニタリング技術開発

統合領域　計29課題

1-1801／藤田　壮／（国研）国立環境研究所／2018～2020
SDGs目標達成に向けた統合的実施方法の包括的検討

1-1802／山澤　弘実／名古屋大学／2018～2020
原子力事故データの総合解析による事故時の有害物質大気中動態評価法の高度化

1-1803／多島　良／（国研）国立環境研究所／2018～2020
災害廃棄物対応力向上のための中小規模自治体向けマネジメント手法の開発

1-1804／兼子　伸吾／福島大学／2018～2020
放射能汚染地域の生物で利用可能な遺伝的影響評価法の開発

1-1805／竹下　健二／東京工業大学／2018～2020
汚染土壌浄化・再利用と廃棄物高減容化を目指した亜臨界水処理システムの開発

1-1901／大塚　直／早稲田大学／2019～2021
世界環境憲章と国際・国内の環境規範のあり方に関する研究

1-1902／五味　馨／（国研）国立環境研究所／2019～2021
地域循環共生圏による持続可能な発展の分析手法の開発

1-1903／奥田　敏統／広島大学／2019～2021
参加型データベースによる持続可能な資源管理と農村社会形成に関する研究

1-1904／三宅　淳巳／横浜国立大学／2019～2021
災害・事故に起因する化学物質流出のシナリオ構築と防災減災戦略

1-1905／北詰　恵一／関西大学／2019～2021
気候変動の暑熱と高齢化社会の脆弱性に対する健康と環境の好循環の政策

1-1906／田村　堅志／（国研）物質・材料研究機構／2019～2021
汚染土壌中のセシウム固定化機構の解明と実用減容化技術の開発

1-1907／山本　剛／九州大学／2019～2021
排熱で運用可能な高効率連続再生式PM2.5除去装置の開発

1-1908／中西　義孝／熊本大学／2019～2021
研究用マイクロプラスチックの調整とBio-MEMS技術による免疫学的検証

1-1909／原　政之／埼玉県環境科学国際センター／2019～2021
建物エネルギーモデルとモニタリングによる炭素排出量・人工排熱量の高精度な推計手法の開発

1RF-1901／井上　一雅／東京都立大学／2019～2021
AI技術の活用による除去汚染土壌モニタリングシステムの開発

1RF-1902／佐藤　雄飛／（公財）環境科学技術研究所／2019～2020
沿岸堆積物に蓄積した放射性ヨウ素の溶出及び底生魚への移行過程の把握

1RF-1903／日隈　聡士／（国研）産業技術総合研究所／2019～2021
グリーン冷媒アンモニア用on-site触媒浄化装置の開発

1RF-1904／中久保　豊彦／お茶の水女子大学／2019～2021
事業効率化と環境価値創出の両立を目指す排水処理・汚泥資源化システムの再編

1-2001／馬奈木　俊介／九州大学／2020～2022
地域循環共生圏の構築に資する経済的理論及び定量的評価手法の開発と国内自治体における実証的研究

1-2002／金森　有子／（国研）国立環境研究所／2020～2022
社会と消費行動の変化がわが国の脱炭素社会の実現に及ぼす影響

1-2003／芦名　秀一／（国研）国立環境研究所／2020～2022
地域資源と地域間連携を活用した地域循環共生圏の計画とその社会・経済効果の統合評価に関する研究

1-2004／中野　正樹／名古屋大学／2020～2022
AI等の活用による災害廃棄物処理プロセスの最適化と処理計画・処理実行計画の作成支援システムの構築

1-2005／金子　達雄／北陸先端科学技術大学院大学／2020～2022
バイオマス廃棄物由来イタコン酸からの海洋分解性バイオナイロンの開発

1G-2001／加藤　博和／名古屋大学／2020～2022
モビリティ革命が脱炭素化を実現するための条件

1G-2002／都留　稔了／広島大学／2020～2021
水蒸気回収膜を用いた新規な環境配慮型廃棄物処理システムの実証

1RF-2001／勝見　尚也／石川県立大学／2020～2021
農耕地におけるマイクロプラスチックの発生と海域への移行に関する研究

1RF-2002／松原　靖子／大阪大学／2020～2022
リアルタイムAI技術に基づく省エネルギー化に資する高度自動運転支援技術に関する研究開発

1FS-2001／吉岡　敏明／東北大学／2020～2020
海洋プラスチック問題解決に資するプラスチック資源循環システム構築調査研究

1J-2001／徳田　宏／オーミケンシ株式会社／2020～2022
セルロースナノファイバーコンポジットの実用化

気候変動領域　計33課題

2-1801／亀山　康子／（国研）国立環境研究所／2018～2020
世界の気候変動影響が日本の社会・経済活動にもたらすリスクに関する研究

2-1802／齋藤　尚子／千葉大学／2018～2020
GOSAT-2と地上観測による全球のメタン放出量推定と評価手法の包括的研究

2-1803／谷本　浩志／（国研）国立環境研究所／2018～2020
ブラックカーボンおよびメタンの人為起源排出量推計の精緻化と削減感度に関する研究

2-1804／本藤　祐樹／横浜国立大学／2018～2020
2050年の社会像を見据えた再生可能エネルギー利用拡大への道筋

2-1805／松橋　啓介／（国研）国立環境研究所／2018～2020
気候変動影響・適応評価のための日本版社会経済シナリオの構築

2RF-1801／近藤　亮太／関西大学／2018～2020
中規模輸送・長期保存用水素貯蔵材料の開発

2RF-1802／花崎　直太／（国研）国立環境研究所／2018～2020
企業の温暖化適応策検討支援を目的とした公開型世界水リスク評価ツールの開発

2RF-1803／栗林　正俊／長野県環境保全研究所／2018～2020
超高解像度気候予測値を用いた森林生態系の炭素収支の将来予測と森林管理の効果の評価

2-1901／入江　仁士／千葉大学／2019～2021
国際観測網への発展を可能とするGOSAT-2の微小粒子状物質及び黒色炭素量推定データの評価手法の開発

2-1902／山崎　宏史／東洋大学／2019～2021
環境中に放流された排水由来GHGs排出メカニズムの解明と排出量算定方法の検討

2-1903／加藤　知道／北海道大学／2019～2021
GOSAT-2による太陽光誘起クロロフィル蛍光を利用した生態系光合成量推定の高精度化

2-1904／高薮　縁／東京大学／2019～2021
気候変動影響評価のための日本域の異常天候ストーリーラインの構築

2-1905／稲津　將／北海道大学／2019～2021
気候変動に伴う都市災害への適応

2-1906／平井　康宏／京都大学／2019～2021
木質材料における接着剤由来温室効果ガス排出量の推定および削減対策に関する研究

2-1907／浜田　崇／長野県環境保全研究所／2019～2021
気候変動適応を推進するための情報デザインに関する研究

2-1908／増井　利彦／（国研）国立環境研究所／2019～2021
アジアにおける温室効果ガス排出削減の深掘りとその支援による日本への裨益に関する研究

2-1909／石塚　成宏／（国研）森林研究・整備機構／2019～2021
土地利用変化による土壌炭素の変動量評価と国家インベントリへの適用に関する研究

2-1910／倉阪　秀史／千葉大学／2019～2021
基礎自治体レベルでの低炭素化政策検討支援ツールの開発と社会実装に関する研究

2RF-1901／藤田　健志／筑波大学／2019～2021
回収フロンの直接的化学変換による再利用法

2RF-1902／小川　敬也／京都大学／2019～2021
海抜以下の砂漠での太陽光を利用して安価で恒久的に電力・水・肥料を生産するシステムの検証

2-2001／西廣　淳／（国研）国立環境研究所／2020～2022
気候変動に対応した持続的な流域生態系管理に関する研究

2-2002／高橋　潔／（国研）国立環境研究所／2020～2022
世界を対象としたネットゼロ排出達成のための気候緩和策及び持続可能な開発

2-2003／小池　真／東京大学／2020～2022
地球温暖化に関わる北極エアロゾルの動態解明と放射影響評価

2-2004／原田　守啓／岐阜大学／2020～2022
水防災・農地・河川生態系・産業への複合的な気候変動影響と適応策の研究

2-2005／平林　由希子／芝浦工業大学／2020～2022
気候政策とSDGsの同時達成における水環境のシナジーとトレードオフ

2-2006／梁　乃申／（国研）国立環境研究所／2020～2022
メタン吸収能を含めたアジア域の森林における土壌炭素動態の統括的観測に基づいた気候変動影響の将来予測

2-2007／小埜　恒夫／（国研）水産研究・教育機構／2020～2022
海洋酸性化と貧酸素化の複合影響の総合評価

2-2008／有村　俊秀／早稲田大学／2020～2022
暗示的炭素価格を踏まえたカーボンプライシングの制度設計：効率性と地域経済間の公平性を目指して

2-2009／野口　泉／（地独）北海道立総合研究機構／2020～2022
積雪寒冷地における気候変動の影響評価と適応策に関する研究

2RF-2001／伊與木　健太／東京大学／2020～2022
ルイス酸性ゼオライトを用いたCO_2高選択吸着剤の開発

2RF-2002／重野　真徳／東北大学／2020～2022
複合ブレンステッド塩基を活用した有機分子への実践的二酸化炭素固定化法

2RF-2003／道端　拓朗／九州大学／2020～2021
地球温暖化予測のための時空間シームレスな降雨・降雪スキームの開発

2FS-2001／竹村　俊彦／九州大学／2020～2020
短寿命気候強制因子による気候変動・環境影響に対応する適応・緩和策推進のための調査研究

資源循環領域　計27課題

3-1801／中谷　隼／東京大学／2018～2020
先端的な再生技術の導入と動脈産業との融合に向けたプラスチック循環の評価基盤の構築

3-1802／山田　正人／（国研）国立環境研究所／2018～2020
遮断型最終処分場の長期的な環境安全性の評価に関する研究

3-1803／東條　安匡／北海道大学／2018～2020
指定廃棄物熱処理残渣中セシウムのアルミノ珪酸塩による捕捉・難溶性態化技術の確立

3-1804／肴倉　宏史／（国研）国立環境研究所／2018～2020
物理選別とエージングを組み合わせた「焼却主灰グリーン改質技術」の確立

3-1805／山川　肇／京都府立大学／2018～2020
SDGs12.3指標の提案に向けた食品ロスの実態の解明

3RF-1801／椿　俊太郎／東京工業大学／2018～2020
マイクロ波加熱を利用した未利用バイオマスの高速炭化システムの開発

3RF-1802／麻生　隆彬／大阪大学／2018～2020
セルロース繊維強化バイオマスプラスチックの開発

3RF-1803／田村　正純／大阪市立大学／2018～2020
廃プラスチックからの選択的有用化学品合成を可能にする固体触媒プロセスの開発

3-1901／梶原　夏子／（国研）国立環境研究所／2019～2021
新規POPs含有プラスチック廃棄物の環境上適正な管理に向けた国際的な分析技術基盤の整備

3-1902／橋本　征二／立命館大学／2019～2021
循環型社会形成のための指標開発と環境・経済・社会の統合的評価

3-1903／棟居　洋介／東京工業大学／2019～2021
我が国の食品ロス削減による環境・経済・社会への影響評価に関する研究

3-1904／矢吹　芳教／（地独）大阪府立環境農林水産総合研究所／2019～2021
最終処分場からのPOPs及びその候補物質の浸出実態の把握手法及び長期的な溶出予測手法の開発に関する研究

3-1905／松本　亨／北九州市立大学／2019～2021
静脈系サプライチェーンマネジメントのための情報通信技術の導入可能性と効果分析

3-1906／石井　一英／北海道大学／2019～2021
廃棄物最終処分場の長寿命化に伴う機能検査と気候変動適応策

3-1907／河井　紘輔／（国研）国立環境研究所／2019～2021
人口減少・高齢化地域における一般廃棄物の持続可能な処理システムの提案

3RF-1901／熊谷　将吾／東北大学／2019～2021
使用済みワイヤーハーネスから高品位の銅および被覆樹脂を回収する高効率湿式ボールミル剥離法の開発

3RF-1902／松本　和也／秋田大学／2019～2020
特異的イオン対形成を利用した白金族金属リサイクル技術の開発

3RF-1903／福　康二郎／関西大学／2019～2021
難分解性化合物の高度分解処理が可能な再生型不均一系フェントン触媒システムの開発

3-2001／松村　幸彦／広島大学／2020～2022
畜産廃棄物由来アンモニアによる大幅な発電効率向上を基盤とする地域循環畜産システム

3-2002／飯塚　淳／東北大学／2020～2021
高電圧パルス破砕を利用したアモルファスタイプ太陽光発電パネルの効率的処理

3-2003／亀島　欣一／岡山大学／2020～2022
バイオガスを燃料とする自律分散型高効率電源の実現に向けた固体酸化物燃料電池の開発

3-2004／後藤　雅宏／九州大学／2020～2022
環境調和型抽出剤の創製と高効率レアメタルリサイクル技術の構築

3G-2001／山内　正仁／鹿児島工業高等専門学校／2020～2022
地域産業と連携した下水汚泥肥料の事業採算性の高い循環システムの構築

3G-2002／仲井　朝美／岐阜大学／2020～2022
リサイクル炭素繊維を原料とした連続繊維強化複合材料部材の開発

3RF-2001／河村　暁文／関西大学／2020～2022
高防汚性と易原料化とを兼備する双性イオン型PETの開発

3RF-2002／平木　岳人／東北大学／2020～2022
アルミニウムドロスを利用した悪臭物質の分離除去技術

3J-2001／島岡　隆行／九州大学／2020～2022
廃棄物処理システムの強靭化に貢献する固化式処分システムの社会実装研究

自然共生領域　計26課題

4-1801／田中　周平／京都大学／2018～2020
特定外来種オオバナミズキンバイの拡大防止策と効果的防除手法の開発

4-1802／久保田　康裕／琉球大学／2018～2020
環境変動に対する生物多様性と生態系サービスの応答を考慮した国土の適応的保全計画

4-1803／関島　恒夫／新潟大学／2018～2020
洋上風力発電所の建設から主要な海鳥繁殖地を守るセンシティビティマップの開発

4-1804／小高　信彦／（国研）森林研究・整備機構／2018～2020
世界自然遺産のための沖縄・奄美における森林生態系管理手法の開発

4-1805／中村　太士／北海道大学／2018～2020
グリーンインフラと既存インフラの相補的役割－防災・環境・社会経済面からの評価

4-1806／藤村　弘行／琉球大学／2018～2020
サンゴの白化現象メカニズム究明と大規模白化に対する生物化学的防止・救済策の確立

4RF-1801／遠藤　圭太／（国研）森林研究・整備機構／2018～2020
小笠原諸島の植生回復を目指した絶滅危惧種オガサワラグワのEx situ保存技術の開発

4RF-1802／中山　翔太／北海道大学／2018～2020
小笠原諸島における殺鼠剤散布が野生動物に及ぼす影響の解明

4-1901／荒谷　邦雄／九州大学／2019～2021
危機的状況にある奄美・琉球の里地棲希少水生昆虫類に関する実効的な保全・生息地再生技術の開発

4-1902／井鷺　裕司／京都大学／2019～2021
ゲノム情報に基づくテーラメイド生物多様性保全策の構築と検証

4-1903／松林　誠／大阪府立大学／2019～2021
ライチョウの再導入に必要な腸内環境整備に関わる技術開発

4-1904／辻　瑞樹／琉球大学／2019～2021
外来アリ類をモデルとした侵略的外来生物管理体系の構築

4-1905／宇野　裕之／（地独）北海道立総合研究機構／2019～2021
遺産価値向上に向けた知床半島における大型哺乳類の保全管理手法の開発

4-1906／山本　清龍／東京大学／2019～2021
共創時代における地域資源としての国立公園の保全管理モデルの構築

4-1907／井口　亮／（国研）産業技術総合研究所／2019～2021
高CO_2時代に対応したサンゴ礁保全に資するローカルな環境負荷の閾値設定に向けた技術開発と適応策の提案

4RF-1901／岩井　紀子／東京農工大学／2019～2021
特定外来生物グリーンアノールの誘引・忌避に有効な音声の解明

4RF-1902／満尾　世志人／新潟大学／2019～2021
森・里・川・海連関の評価手法構築に向けた小型通し回遊魚の生態解明

4-2001／矢原　徹一／（一社）九州オープンユニバーシティ／2020～2022
次世代DNAバーコードによる絶滅危惧植物の種同定技術の開発と分類学的改訂

4-2002／戸田　守／琉球大学／2020～2022
両生爬虫類をモデルとした希少種選定の基礎資料整備と保全対象種の簡易同定法の確立およびそれらのワークフローの提案

4-2003／内貴　章世／琉球大学／2020～2022
植物相の定量的解析による世界自然遺産候補地西表島の管理基盤情報の確立

4-2004／荒木　仁志／北海道大学／2020～2022
環境DNAに基づく希少種・外来種の分布動態評価技術の開発と実践

4-2005／岡部　貴美子／（国研）森林研究・整備機構／2020～2022
SFTSに代表される人獣共通感染症対策における生態学的アプローチ

4-2006／城ヶ原　貴通／沖縄大学／2020～2022
侵略的外来哺乳類の防除政策決定プロセスのための対策技術の高度化

4G-2001／横山　真弓／兵庫県立大学／2020～2022
イノシシの個体数密度およびCSF感染状況の簡易モニタリング手法の開発

4RF-2001／阿部　博和／岩手医科大学／2020～2022
海産環形動物絶滅危惧種の特定のための網羅的DNAバーコーディング：希少種の探索，新種記載と分類の整理，および分布情報の集積の促進

4RF-2002／小黒　芳生／（国研）森林研究・整備機構／2020～2022
ビッグデータと機械学習を用いた国立公園の文化的サービス評価

安全確保領域　計33課題

5-1801／森野　悠／（国研）国立環境研究所／2018～2020
革新的モデルと観測・室内実験による有機エアロゾルの生成機構と起源の解明

5-1802／櫻井　達也／明星大学／2018～2020
2020年船舶燃料油硫黄分規制強化による大気質改善効果の評価

5-1803／山本　裕史／（国研）国立環境研究所／2018～2020
海産・汽水生物を用いた慢性毒性短期試験法の開発

5-1851／上島　通浩／名古屋市立大学／2018～2020
有機リン化合物曝露評価指標としての尿中ジアルキルリン酸の有効性の検証

5RF-1801／岩崎　雄一／（国研）産業技術総合研究所／2018～2020
化学物質の複合曝露による野外生態リスク評価方法の開発：水質及び底生動物調査と環境水を用いた生物応答試験の活用

5RF-1802／生田　昂／東京農工大学／2018～2020
超分子修飾グラフェンを用いた有害物質の可搬型迅速モニタリング手法の開発

5-1901／黒田　章夫／広島大学／2019～2021
蛍光顕微鏡法による大気アスベスト連続自動計測装置の開発と解体現場におけるアスベスト飛散状況の解明

5-1902／中島　典之／東京大学／2019～2021
底生生物に対する曝露経路と生物利用性を考慮した包括的な底質リスク評価手法の構築

5-1903／菅田　誠治／（国研）国立環境研究所／2019～2021
大気汚染対策効果評価のためのシミュレーション支援システムの研究開発

5-1904／内澤　潤子／（国研）産業技術総合研究所／2019～2021
ディーゼル車排出ガス後処理装置の耐久性能評価手法及び機能回復手法の研究

5-1905／駒井　武／東北大学／2019～2021
汚染土壌からの揮発量ポテンシャルの予測手法と揮発による摂取リスクの評価

5-1951／中村　裕之／金沢大学／2019～2021
多環芳香族炭化水素類を含む粒子状物質が関与する新しい慢性咳嗽疾患に関する環境疫学的研究

5-1952／征矢野　清／長崎大学／2019～2021
環境医薬品の魚類次世代生産への影響解析

5-1953／久保　拓也／京都大学／2019～2021
甲状腺ホルモン受容体結合化学物質の簡便スクリーニングと新規バイオマーカー探索

5-1954／西野　貴裕／（公財）東京都環境公社　東京都環境科学研究所／2019～2021
国内における生活由来化学物質による環境リスク解明と処理技術の開発

5-1955／島　正之／兵庫医科大学／2019～2021
大気粒子中化学成分が小児のアレルギー及び生活習慣病の発症に及ぼす影響の解明

5RF-1901／藤林　恵／九州大学／2019～2021
ワカサギを指標とした富栄養化湖沼の生態系の健全性評価手法の提案

5RF-1902／簾　智仁／信州大学／2019～2021
硝酸イオンの効率的除去に向けた超高選択性無機アニオン交換体の開発

5RF-1951／堀江　好文／秋田県立大学／2019～2021
化学物質の内分泌かく乱作用を予測・検出する新たなスクリーニング法の開発

5RF-1952／吉村　彰大／千葉大学／2019～2020
途上国での水銀使用抑制へ向けた環境調和型金精錬プロセスの適用と水銀排出の削減ポテンシャルの評価

5-2001／清水　厚／（国研）国立環境研究所／2020～2022
気候変動に伴う黄砂の発生・輸送に関する変動予測とその検出手法に関する研究

5-2002／荒木　敦子／北海道大学／2020～2022
環境化学物質の複合曝露による思春期の健康影響評価と曝露源の検討

5-2003／磯部　友彦／（国研）国立環境研究所／2020～2022
化学物質体内動態モデル及び曝露逆推計モデル構築システムの開発

5-2004／竹川　暢之／東京都立大学／2020～2022
国際民間航空機関の規制に対応した航空機排出粒子状物質の健康リスク評価と対策提案

5-2005／森本　昭彦／愛媛大学／2020～2022
播磨灘を例とした瀬戸内海の栄養塩管理のための物理―底質―低次生態系モデルの開発

5-2006／片山　浩之／東京大学／2020～2022
水環境における新興・再興微生物リスク管理に向けた微生物起源解析の活用に関する研究

5-2007／石原　康宏／広島大学／2020～2022
PM2.5の脳循環および脳梗塞予後に及ぼす影響の解析

5RF-2001／神　慶孝／（国研）国立環境研究所／2020～2022
大気モニタリングネットワーク用低コスト高スペクトル分解ライダーの開発

5RF-2002／弓本　桂也／九州大学／2020～2021
機械学習を用いた大気汚染予測システムへのガイダンス手法の開発と予測精度向上

5RF-2003／中澤　暦／福岡工業大学／2020～2022
小規模金採掘による水銀汚染評価とその包括的リスク評価手法の構築

5RF-2004／鈴木　俊介／（国研）産業技術総合研究所／2020～2021
燃焼における官能基を有した多環芳香族炭化水素の生成機構解明とモデル構築

5RF-2005／西山　正晃／山形大学／2020～2022
環境中における薬剤耐性遺伝子の伝播ポテンシャルと伝達機構の解明

5RF-2006／酒井　宏治／東京都立大学／2020～2022
タイヤ粉塵由来マイクロプラスチックの時空間分布特性及び交通流の影響解明

公募情報

公募時期

公募の予定は、独立行政法人環境再生保全機構 環境研究総合推進費ホームページ及び環境省推進費ホームページにてお知らせします。
9月～10月に公募要項を公表し、課題提案を受け付けます。

応募方法

課題提案に必要な資料は、独立行政法人環境再生保全機構 環境研究総合推進費ホームページからダウンロードできます。課題の申請は、「府省共通研究開発管理システム（e-Rad）」を通じて行います。

課題の選定

提案課題は、書類の不備や各要件のチェック後、外部の専門家・有識者等により構成される環境研究推進委員会及び各研究部会において審査を行います。審査は、書面による第1次審査を経て課題を絞り、ヒアリング形式の第2次審査により、採択課題を選定します。
採択課題の決定は、例年3月ごろです。審査結果は、審査の終了後、応募者へ送付します。

《お問い合せ先》

環境省

大臣官房総合政策課環境研究技術室

〒100-8975 東京都千代田区霞が関1-2-2　TEL：03-3581-3351（代表）
https://www.env.go.jp/policy/kenkyu/

【企画監修】 環境省
【編　　集】 一般社団法人　国際環境研究協会
【刊　　行】 令和2年9月

リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。